

第7回 上級講座のご案内 (第二報)

日本教育オーディオロジー研究会
大沼 直紀

このたび、日本教育オーディオロジー研究会では、上級講座を下記の要領で開催いたします。
多くの先生方の参加をお待ちしています。

1. 期 日 2011年2月11日(金・祝)～2月13日(日)

※2月13日(日)は、「公開講座・研究会」として開催し、上級講座参加者以外の受講を受け付けます。
また、「公開講座・研究会」は東海教育オーディオロジー研究協議会との共同開催です。

2. 会 場 2月11日(金・祝) 2月12日(土) 愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパス1号館 (名古屋市千種区桜が丘23)

名古屋市営地下鉄東山線「星ヶ丘」から徒歩3分
<http://www.aasa.ac.jp/guidance/hosigaoka.html>

2月13日(日) ウィンクあいち(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

名古屋駅から徒歩1分 <http://www.winc-aichi.jp/>

※ウィルあいちではありません。ご注意ください。

3. 対 象 上級講座：各地域の聾学校、難聴学級、難聴幼児通園施設など、聴覚障害児の教育・療育に関わる者(日本教育オーディオロジー研究会、各地域の教育オーディオロジー研究協議会に推薦された者)

公開講座・研究会：聾・聴覚障害児の教育、療育に携わる者、関心のある者
(多くの皆様のご参加をお待ちしております。)

4. 内 容

第1日(11日) 上級講座 会場 愛知淑徳大学

13:00～ 受付・開会式・オリエンテーション

13:45～ 全体講座Ⅰ「聴覚を活用する意味」 講師 立入 哉 愛媛大学

15:35～ 全体講座Ⅱ「教育オーディオロジーの専門的技量－乳幼児段階の支援－」
講師 庄司 和史 信州大学

16:30～ 選択講座Ⅰ

第2日目(12日) 上級講座 会場 愛知淑徳大学

9:00～ 受付

9:15～ 選択講座Ⅱ

11:00～ 選択講座Ⅲ

13:00～ ランチョンセミナー 「補聴器メーカー4社による補聴器の最新情報」

15:20～ 選択講座Ⅳ

17:00～ 選択講座Ⅴ

第3日目(13日) 公開講座・研究会 会場 ウィンクあいち

9:30～ 受付

10:00～ 公開講座「音を認識する脳のシステム」

講師 力丸 裕先生 同志社大学 生命医科学部 生命医科学研究科
知覚・認知脳神経機構研究室

13:30～ 日本教育オーディオロジー研究会 総会

13:40～ 日本教育オーディオロジー研究会 研究会

15:00～ 閉会式

5. 参加費	全日程参加の場合	会員	10000円	非会員	13000円
	上級講座のみ	会員	9000円	非会員	11000円
	公開講座、研究会のみ	日本オーヂ、及び東海オーヂ会員			1000円
		いずれの会員でもない場合			2000円

※当日、受付でお支払いください。

※公開講座・研究会のみ参加される場合は、申込みは必要ありません。当日、直接会場にお越しください。

6. 申込み締め切り 2010年12月10日（金）

7. 申込み方法

- ・上級講座に参加を希望される方は、お住まいの地域の申込み先をご確認の上、申込み願います。
- ・申込みはご所属、お名前を記したメールにてお願いいたします。また、情報保障（手話通訳、要約筆記など）が必要な場合もその旨お伝えください。
- ・参加が確定した方には後日メーリングリストからメールが届きます（送信アドレスseminar〜）。メーリングリストを通じてご参加の皆様の声を講座の内容に反映いたします。また事務局、講師から事前の準備物などのご用意について連絡いたします。必ず個人のメールアドレスから参加申込みをお願いします。
- ・上級講座の定員50名に達し次第、参加申込みを終了いたします。

※参加日、受講する講座については、受講が確定した後「講座の概要」「参加希望調査票」を送らせていただきます。

8. 各地区の申込先

北海道	熊谷英雄（帯広聾）	kumahide.saturo@hokkaido-c.ed.jp
東北	大坂 充（青森聾）	osaka-mitsuru@m04.asn.ed.jp
関東	庄司和史（信州大学）	shoji@shinshu-u.ac.jp
東海	小岩恭典（千種聾）	ykoowa1978@yahoo.co.jp
北陸	前田智子（長岡聾）	tomo-maeda@an.wakwak.com
近畿	中井弘征（奈良ろう）	h-nakai@indigo.plala.or.jp
中国	井桁陽介（広島南）	chu_eaa@yahoo.co.jp
四国	樋口恵子（徳島聾）	tdsear@hotmail.com
九州・沖縄	八田徳高（直方聾）	chicchibb@yahoo.co.jp

9. 問い合わせ（e-mail お願いします。）

日本教育オーディオロジー研究会 第7回上級講座 事務局 小岩 恭典（愛知県立千種聾学校）
e-mail: ykoowa1978@yahoo.co.jp 勤務校の連絡先 FAX 052-723-6824

第7回 上級講座 公開講座 プログラム

第1日(11日)愛知淑徳大学

13:00~13:30		受付				
13:30~13:45		開会式・オリエンテーション				
13:45~15:25		1 全体講座「聴覚を活用する意味」 立入(愛媛大)				
15:35~16:15		2 全体講座「教育オーディオロジーの専門的技量 -乳幼児段階の支援-」 庄司(信州大)				
16:30~18:00	選択講座 I	3 語音検査 吉田(群馬)	4 聴能の評価と聴覚学習 中井(奈良)	5 乳幼児の聴力検査 尾崎(こぼと)	6 音響学の基礎 中瀬(大阪)	7 聴覚障害に配慮した神経心理学検査の実施-WISC-IIIを中心に 小川(岐阜)

第2日(12日)愛知淑徳大学

9:00~9:15		受付				
9:15~10:45	選択講座 II	8 デジタル補聴器のフィッティングI(各種機能) 立入(愛媛大)	9 演習・オージオグラム 中瀬(大阪)	10 最新の人工内耳の機能について ココレア、メドエルバイオニクス	11 マスキング 富澤(目白大)	12 大切なことを楽しく-幼稚園の活動- 服部(千種)
11:00~12:30	選択講座 III	13 デジタル補聴器のフィッティングII(二ポイントと圧縮比) 立入(愛媛大)	14 聴覚活用と言語学習 村松(岡崎)	15 人工内耳-マッピング 井脇(愛知淑徳)	16 乳幼児の聴覚の発達と保護者支援 庄司(信州大)	17 小学校外国語(英語)活動-事例検討:聴覚障害児の聞こえに配慮した活動のあり方を求めて- 松本(岐阜)
12:30~13:00		昼食				
13:00~13:30		18 シーメンス				
13:30~14:00	ランチョンセミナー	19 オーティコン				
14:00~14:30		20 フォナック				
14:30~15:00		21 スターキー				
15:20~16:50	選択講座 IV	22 デジタル補聴器のフィッティングI(フィッティングソフトの扱い) 尾崎(こぼと)	23 難聴理解授業のすすめ方 芦田(舞鶴)	24 RECD 富澤(目白大)	25 FM補聴システムの調整(インスパイロとアミーゴ)40分×2社 フォナック・オーティコン	26 聞こえに苦戦している子どものとらえ方-判断のための検査バッテリーの組み方・解釈の仕方- 小川(岐阜)
17:00~18:30	選択講座 V	27 事例検討(補聴器フィッティング) 中井(奈良) 吉田(群馬)	28 事例検討(地域支援) 芦田(舞鶴)	29 事例検討(人工内耳) 井脇(愛知淑徳)	30 事例検討(医療機関・療育機関との連携) 坂・伊藤(三重)	31 聞こえに苦戦している子どもの指導-検査結果を生かした指導・支援- 小川(岐阜)

第3日(13日)ウイックあいち

9:30~10:00		受付
10:00~12:30	公開講座	演題「音を認識する脳のシステム」 講師 カ丸裕先生 同志社大学 生命医科学部 生命医科学研究科 知覚・認知脳神経機構研究室
12:30~13:30		昼食
13:30~13:40		日本教育オーディオロジー研究会 総会
13:40~15:00		日本教育オーディオロジー研究会 研究会
15:00~		閉会式

2010 年度 公開講座 講師紹介

講師 ^{りきまる} 力丸 ^{ひろし} 裕 先生

福岡県生まれ 京都大学工学部卒

米国 Northwestern 大学 (Chicago) にて Communication Science and Disorders の分野で PhD 取得。この頃の専攻は、Audiology。その後、Washington 大学 (St.Louis) にてコウモリ生物ソナーの神経機構解明の研究に従事。1991 年から理化学研究所フロンティア研究システム (現 理化学研究所脳科学総合研究センター) にてサル聴覚中枢研究を開始。

1994 年に新技術事業団「さきがけ」研究員に採用

1995 年より、同志社大学工学部知識工学科教授

2006 年からバイオ・ナビゲーション研究センター長

2008 年より、生命医科学部・生命医科学研究科教授

音を認識する脳の不思議なシステムが生み出す さまざまな可能性

人の知覚を研究することで
社会に貢献できるものをつくる

騒々しい駅の券売機の前で「〇〇駅まで1枚」と言って乗車券が買えるようなシステムはありませんよね。人の言葉は、同じ人が同じ言葉を同じように発しているような場合でも、イントネーション、強弱などがその時その時によって異なります。それでも人は、その都度脳の中で変換しながら聞いているから、相手が何を言っているのかを認識することができます。しかし、機械には、そんな都合のいい変換はできません。だから認識できないのです。人の立場に立って、人の認識システムがどうなっているのかを考えることが大事で、コンピュータの処理速度だけをいくら速くしても、結局、認識は不可能なのです。私たちの学科は、このような「人の立場から見たものづくり」にこだわり、貢献できる研究を行うところです。

聴覚と脳の関係
を
解き明かして製品化へ

音が脳の中でどのように処理されているのかなどについて研究しています。新しい補聴器の研究もそうですし、コウモリの超音波を利用した知覚認識の研究もその一環です。～中略～コウモリの脳の構造を解き明かし、飛行機や自動車の新たな障害物自動認識システムなどに応用していこうと考えています。～中略～人の脳の中で、音声はどのようにして知覚されるのかという研究も行っています。「劣化雑音音声」と呼ばれるただのザワザワした雑音があるのですが、最初聞いた時には雑音にしか聞こえないのに、「実はこう言っています」と文字で見せてもらおうと、とたんにそう聞こえるようになる、という不思議な音声です。～中略～、脳の中でそれまで音声を認識する際には、使われていなかった脳の部位が活性化し、雑音を音声に創り変えて聞く仕組みが新しく確立されるのです。その瞬間、雑音でしかなかったものが音声として認識できるのです。このシステムを応用したのが、脳を用いた補聴器です。ザワザワという雑音が判断できる人ならば、音声を認識できるようになります。脳は進化する余地がたくさんあるんですよ。

『ブンブンPARTNER 2009.6』より抜粋

私たちは子どもたちとのかかわりの中で、子どもの聴覚の発達をとらえます。それは、日常的に見られる反応、語音検査等の結果から推し量るものといえるかもしれませんが。実際に子どもたちの頭の中でどのような認知処理が行われているのかを見極めるのは大変難しい問題です。

力丸先生の研究は、脳の中で行われる様々な認知処理過程を科学的にとらえ、それを実践にいかそうとするものです。今後の補聴システムの発展を担う研究ともいえます。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。